

C-40 着衣による姿勢の変化に就いて

静岡大教養 平沢彌一郎 和洋女子大家政 渡部春栄 O伊藤秀三郎

目的 以前より私共は、からだの姿勢に対し関心を懷いて居た。その姿勢も衆知の如く、シヨルダーバック等の掛け方に依つて変化する。そこで私共は、もっと基本的な面まで掘下げて、いつた着衣に依つて姿勢が崩されるかどうか、その点を検討しようとする目的で、計測を若干試みた。

方法 姿勢の様相を見るために、私共は重心図(Electrologram)を指標にした。従つて、その記録のためには、69型ピドスコープとスタジオファックスを用いた。被験者には、女子モデル(年令26才)を選んだ。

条件としては、裸の場合と浴衣、ワンピース又はパンタロン着用の場合で、姿勢変化分析のため、被験者には(A)両足テスト、(B)片足テスト、(C)十字テスト、(D)回旋運動テスト及び(E)ハチ向顛倒テストを行わせた。

結果 裸の場合と着衣の場合との動作比較では、前者の方が正確であつた。次に(A)より(C)までのテストから判断すると、ワンピース、浴衣及びパンタロンの順に優れて居た。併し乍ら、(D)及び(E)テストでは、必ずしも上記のようにはならなかつた。

従つて、結局私共は、姿勢が着衣に依つて崩される可能性のあることを知り、その点を客観的に追究するのに、重心図を用いるべきではないかと思考した。

(質問者のために) 平沢 03-723-4626

伊藤 03-334-1741